

## Googleは、メインサイトとは独立しているセクションを区別して別評価する

Google は、サイトのセクションがメインサイトのコンテンツから独立しているか、または区別できるかを判断してメインサイトとは別評価する

Google は、サイトのセクションがメインサイトのコンテンツから独立しているか、または区別できるかを判断してメインサイトとは別評価します。

### コンテンツのジャンルがメインのサイトコンテンツと完全に異なると評価は別扱い

大手パブリッシャーの [Forbes](#) が運営する [Forbes Advisor](#) や [Fortune](#) が運営する [Fortune Recommends](#) は、メインとなる報道コンテンツ(ニュース記事)とは異なり、金融関連のお役立ちコンテンツを提供する“アフィリエイト”コンテンツを提供しています。

この 2 つのサイトを含め同様の形態をとっているメディアサイトの該当セクションが、最近になって著しく検索トラフィックを減少させました。

[分析](#)した Glenn Gabe(グレン・ゲイブ)氏は、[サイトの評判の不正使用](#)(俗称、寄生サイト)に対する[アルゴリズムによる処理](#)のテストが始まっているのではないかと推測しました。

しかしながら、まだテストは始めていないと、この推測を否定するコメントを Google の Danny Sullivan(ダニー・サリバン)氏からゲイブ氏は得たとのことでした。

そしてサリバン氏に続いて、別の担当者から次のようなメッセージも届きました。

Our systems aim to understand if a section of a site is independent or starkly different from the main content of the site. This helps us surface the most useful information from a range of sites.

私たちのシステムは、サイトの一部がサイトのメインコンテンツから独立しているか、または大きく異なっているかを理解することを目指しています。これは、さまざまなサイトから最も役立つ情報を提供するのに役立ちます。

## Googleは、メインサイトとは独立しているセクションを区別して別評価する

Google は、サイトのセクションがメインサイトのコンテンツから独立しているか、または区別できるかを判断してメインサイトとは別評価する



この担当者は、サードパーティ製のコンテンツをサブディレクトリやサブドメインで運用することに対する見解を示した2019年のX(当時はTwitter)での投稿を関連情報として示しました。

第三者が他のドメインのサブドメインまたはサブフォルダでコンテンツをホストできるかどうかという質問を受けてきました。これはガイドラインに反するものではありません。しかし、この慣行が広まるにつれて、そのようなコンテンツがメインサイトから独立しているかどうかをより適切に認識し、それに応じて処理するために、システムが改善されています。

全体的に、メインサイトの一部であるかのように提示されたコンテンツを含むサブドメインまたはサブフォルダを、綿密な監督やプライマリサイトの関与なしに、他者に使用させることはお勧めしません。



検索で最高の成果を上げるには、独自のブランドを反映した、独自の努力による付加価値のあるコンテンツを提供することをお勧めします。

### サイト評判の不正使用とは別の検索システムの改善か？

Forbes や Fortune などの大手パブリッシャーがサイト内で運営するアフィリエイトセクションが検索トラフィックを減らしたのは、そのサイトのメインとなるコンテンツと大きくかけ離れたテーマのコンテンツが含まれているセクションを、本体とは切り離して別扱いで評価する検索システムの改良だった可能性があります。

少なくとも、サイトの評判の不正使用に対策する検索システムとは別ものです。



ディレクトリで区切られたセクション単位で評価するシステムがGoogle 検索には存在するそうです。

したがって、特定のセクションだけの検索トラフィックがサイトのほかの部分とは異なる順位変動を見せるのはありえることです。

サイトの評判の不正使用の対策に特化した検索システムではなくても、寄生サイトの対策を Google は進めているようにも思えます。

## ウェブ検索するChatGPT SearchをOpenAIがリリース、Google検索よりも使えるか？

OpenAI が試験公開した生成 AI 検索エンジンの ChatGPT Search は、少なくともインデックスデータに関しては Microsoft Bing に大きく依存しているようだ

OpenAI は、ウェブ検索して回答を生成する [ChatGPT Search](#) を公開しました。

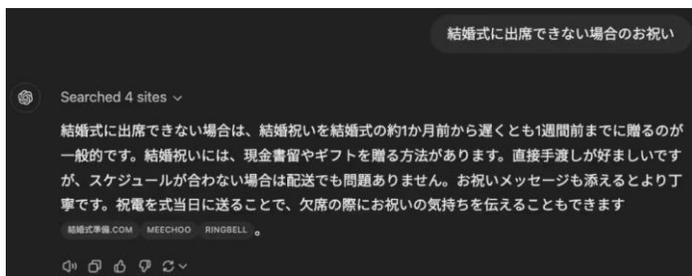


ChatGPT Search は、[SearchGPT](#) という名称で [限定したユーザーを対象](#) に試験していた機能の改良版です。

現時点では、ChatGPT の Plus ユーザーと Team ユーザー、そしてウェイトリストに登録していたユーザーが ChatGPT Search を利用できます。

### ウェブ検索結果から回答を生成

[結婚式に出席できない場合のお祝い] の質問で ChatGPT Search が生成した回答です。

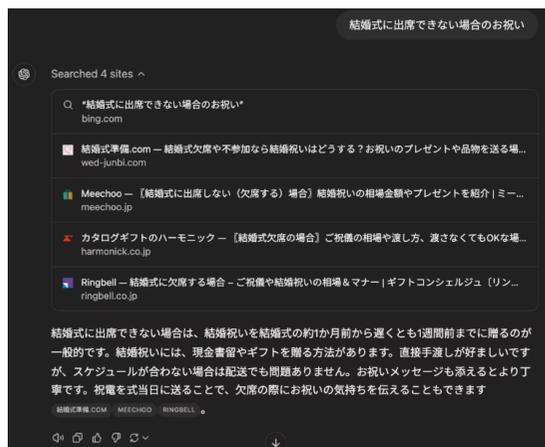


## ウェブ検索するChatGPT SearchをOpenAIがリリース、Google検索よりも使えるか？

OpenAI が試験公開した生成 AI 検索エンジンの ChatGPT Search は、少なくともインデックスデータに関しては Microsoft Bing に大きく依存しているようだ

回答の下に、参照したサイトが小さく表示されています。

展開すると詳細が出現します。



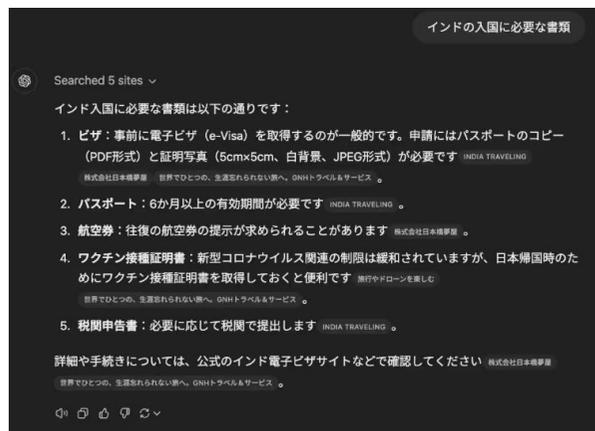
比較として、Google の AI Overview(AI による概要)が生成した回答がこちらです。



## ウェブ検索するChatGPT SearchをOpenAIがリリース、Google検索よりも使えるか？

OpenAI が試験公開した生成 AI 検索エンジンの ChatGPT Search は、少なくともインデックスデータに関しては Microsoft Bing に大きく依存しているようだ

[インドの入国に必要な書類] の質問で ChatGPT Search が生成した回答です。



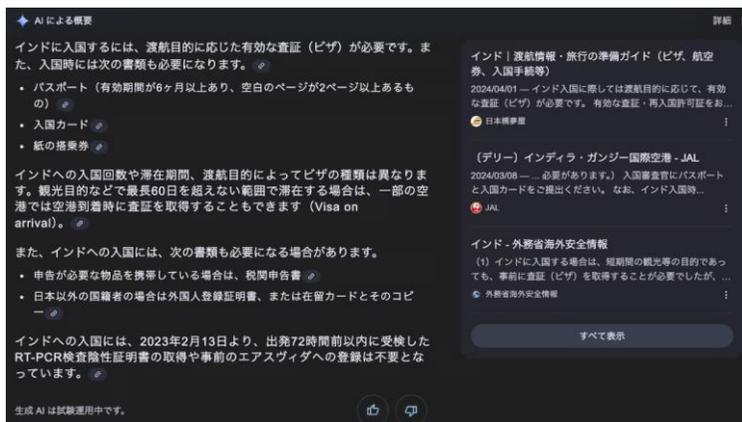
ChatGPT Search が参照したウェブコンテンツです。



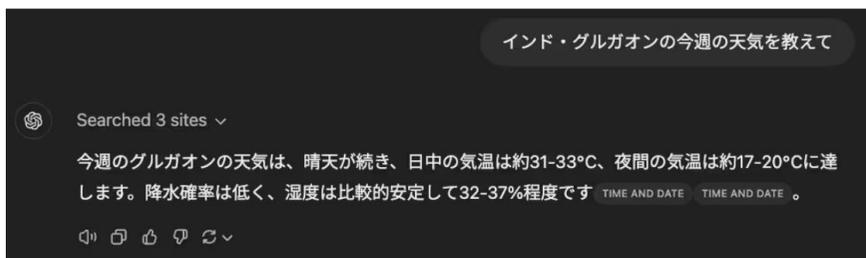
## ウェブ検索するChatGPT SearchをOpenAIがリリース、Google検索よりも使えるか？

OpenAI が試験公開した生成 AI 検索エンジンの ChatGPT Search は、少なくともインデックスデータに関しては Microsoft Bing に大きく依存しているようだ

同じクエリで AI Overview が生成した回答です。



[インド・グルガオンの今週の天気を教えて] の質問で ChatGPT Search が生成した回答です。



## ウェブ検索するChatGPT SearchをOpenAIがリリース、Google検索よりも使えるか？

OpenAI が試験公開した生成 AI 検索エンジンの ChatGPT Search は、少なくともインデックスデータに関しては Microsoft Bing に大きく依存しているようだ

Google の検索結果です。



まだ、少しだけしか ChatGPT Search に触っていないので、回答の精度だったり使い勝手を語れません。

ただ、ハルシネーションをどうしても疑ってしまうのと Google 検索に慣れているせい(あるいはバイアス?)もあってか、良い感じには思えません。

最後の天気予報に限って言えば、Google 検索のほうがずっとわかりやすく感じます。

古い情報が混ざっているようにも思えました。

ChatGPT Search に関する追加情報や補足情報は別の記事でまたお伝えします。

## ChatGPT search登場

OpenAIは米国現地時間10月31日、ChatGPTに“ChatGPT search”というWeb検索機能を追加し、情報源へのリンクも提示すると発表しました。GoogleのAI Overview(AIによる概要)と同じ機能の仕様となり、またソース元のWebサイトページも表示することから、Google検索結果のド競合視されていますが…実際のところどうでしょう。

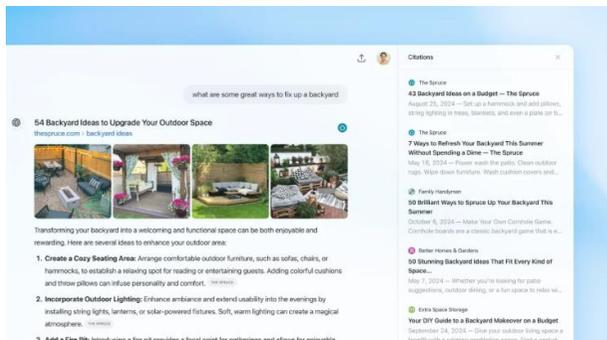
### どんな仕様？

もともと、オプトインすることで利用できていたOpenAIの独自検索エンジンの“SearchGPT”でしたが、今回の“ChatGPT search”はこれを更に強化し、最新のニュースに基づく回答をリアルタイムで返したり、天気や株式に関する情報を図やグラフ付きで表示したり、地図を表示したりできるようになります。そして、何より情報のソース元となるWebサイトページも表示できるようになります。

この検索機能は“ChatGPT Plus”、“ChatGPT Team”、“SearchGPT”の待機リストに申請・登録されたユーザーに提供されていくようです。“Enterprise”や“Edu”のプランでは今後数週間で、ChatGPT無料版においては今後数ヶ月で展開予定とのことでした。

### 情報源に直接アクセス

チャットにはニュース記事やブログ投稿などのソースへのリンクが含まれるようになり、さらに詳しく知る方法を提供します。応答の下にある [ソース] ボタンをクリックすると、参照を含むサイドバーが開きます。

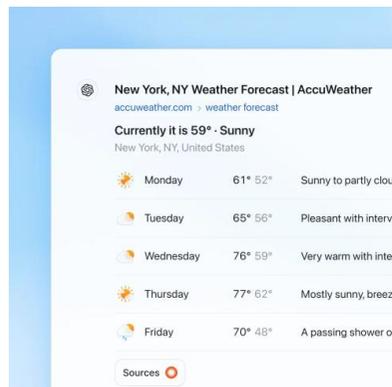


引用) [Introducing ChatGPT search | openai.com](https://openai.com)より和訳

## ChatGPT search登場

OpenAIは米国現地時間10月31日、ChatGPTに“ChatGPT search”というWeb検索機能を追加し、情報源へのリンクも提示すると発表しました。GoogleのAI Overview(AIによる概要)と同じ機能の仕様となり、またソース元のWebサイトページも表示することから、Google検索結果のド競合視されていますが…実際のところどうでしょう。

また、ニュースやデータのプロバイダーと提携して、天気、株価、スポーツ、ニュース、地図などのカテゴリに最新情報と新しいビジュアル デザインを追加しました。



引用) [Introducing ChatGPT search | openai.com](https://openai.com)より和訳

繰り返しになりますが、元々こちらの機能は“SearchGPT”という名称で今年の7月にテスト的に公開されていました。その時から既にSearchGPTでは独自のインデックスを作成すると説明されており、検索エンジンがGoogleやBingの検索結果や順位に基づくものではなく、ChatGPT独自のアルゴリズムを持つことが分かっていました。

### Googleの脅威となるか

Google検索においては、Web検索を通して“AIによる概要”コーナーを作り、Google検索結果を豊富にするアプローチです。対して今回のChatGPT SearchはAIによる回答を通して引用元となるWebサイトページを紹介し、回答結果を豊富にするアプローチです。要は同じような検索結果になってきたってことですね(笑)。

当然GoogleとOpenAIでは検索エンジンも異なるためソースとなるWebサイトページの優先順位もランキングも異なるでしょう。既にGoogleでは圧倒的な検索ユーザーを有していますが、ここにOpenAIがどう絡んでくるか、検索市場を奪いに来るのか…Google検索とSEOerは戦々恐々とするかもしれませんね。解析ツールで chatgpt.com からの流入が増えてきたら要チェックです。

とはいえ、パブリッシャーであるサイト運用者がやることは変わらずですね。見やすいUIと速い表示速度、超高品質なコンテンツと使いやすさ、を追求することに変わりはありませんので、引き続き私たちはサイトを良くすることに邁進していきましょう。